

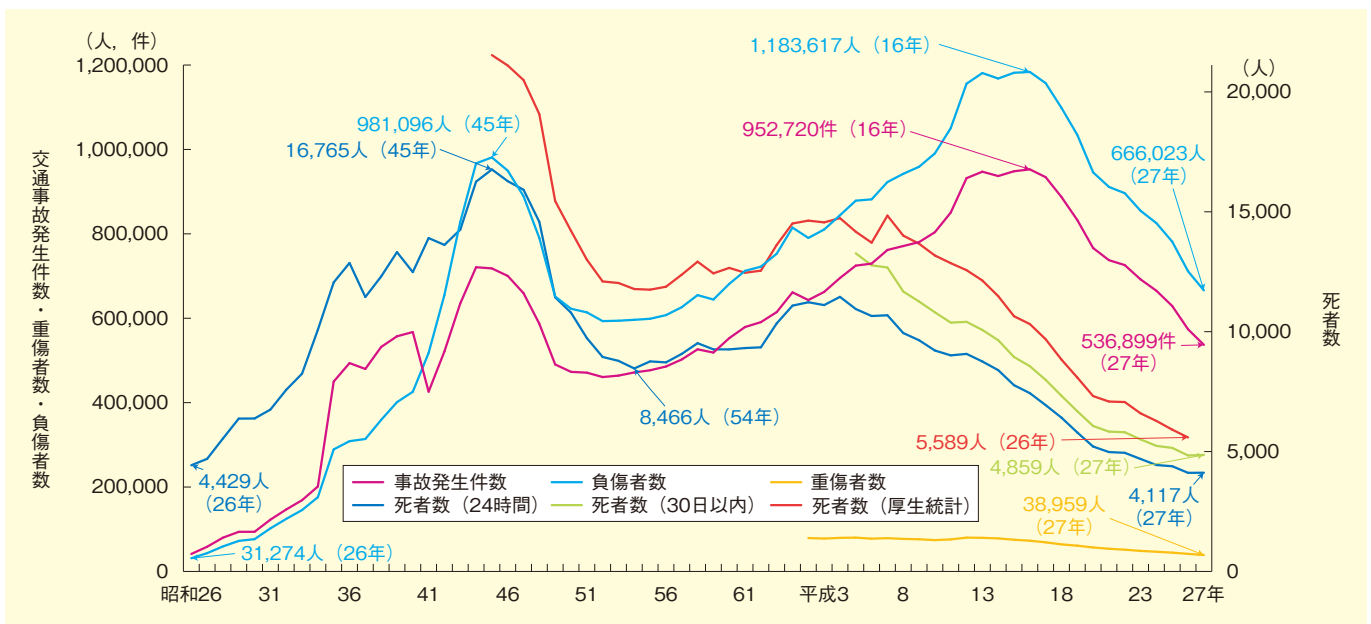
第1部 道路交通

第1章 道路交通事故の動向

1 道路交通事故の長期的推移

交通事故死者数は、15年ぶりに増加。

▶第1-1図 道路交通事故による交通事故発生件数、死者数及び負傷者数



- 注 1 警察庁資料による。
 2 昭和41年以降の件数には、物損事故を含まない。また、昭和46年までは、沖縄県を含まない。
 3 「死者数 (24時間)」とは、交通事故によって、発生から24時間以内に死亡したものをいう。
 4 「死者数 (30日以内)」とは、交通事故によって、発生から30日以内 (交通事故発生日を初日とする。) に死亡したものをいう。
 5 「死者数 (厚生統計)」は、警察庁が厚生労働省統計資料「人口動態統計」に基づき作成したものであり、当該年に死亡した者のうち原死因が交通事故によるもの (事故発生後1年を超えて死亡した者及び後遺症により死亡した者を除く。) をいう。なお、平成6年までは、自動車事故とされた者を、平成7年以降は、陸上の交通事故とされた者から道路上の交通事故ではないと判断される者を除いた数を計上している。

【交通事故死者数 (24時間死者数)、交通事故発生件数、負傷者数の推移】

- 昭和45年に交通事故死者数は、史上最悪の1万6,765人を記録
- ↓
- 交通安全対策基本法が45年に制定され、同法に基づく交通安全基本計画を46年以降5年ごとに策定。
- 昭和54年には交通事故死者数は、8,466人まで減少。その後増勢に転じるが、平成4年を境に再び減少に転じる。
- ↓
- 平成16年に交通事故発生件数は、95万2,720件、負傷者数は118万3,617人とそれぞれ史上最悪を記録
- ↓
- 平成27年に交通事故死者数は、4,117人となり、15年ぶりに増加。
交通事故発生件数、負傷者数は11年連続の減少。

2 平成27年中の道路交通事故の状況

●概況

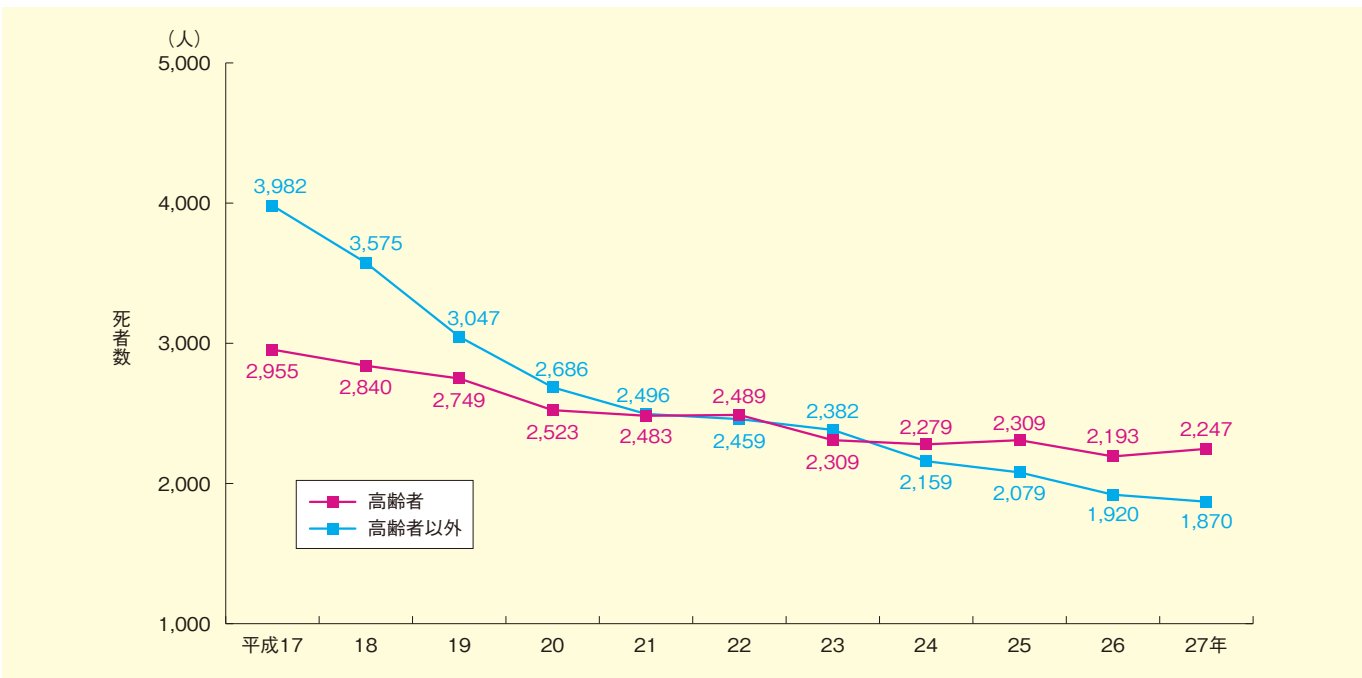
○ 事故発生件数	53万6,899件	(前年比△3万6,943件, △6.4%)
○ 死傷者数	67万0,140人	(前年比△4万5,347人, △6.3%)
○ うち負傷者数	66万6,023人	(前年比△4万5,351人, △6.4%)
○ うち死者数 (24時間)	4,117人	(前年比+ 4人, +0.1%)
○ うち死者数 (30日以内)	4,859人	(前年比+ 21人, +0.4%)

交通事故発生件数及び負傷者数は11年連続で減少したが、死者数はピーク時（昭和45年：1万6,765人）の4分の1以下となったものの15年ぶりに増加した。

高齢者の人口当たりの交通事故死者数は引き続き減少しているものの、高齢者人口そのものの増加により、結果的に高齢者の交通事故死者数が増加していることが交通事故死者数全体の増加の主な要因であると考えられる（第1-4図及び第1-5図）。

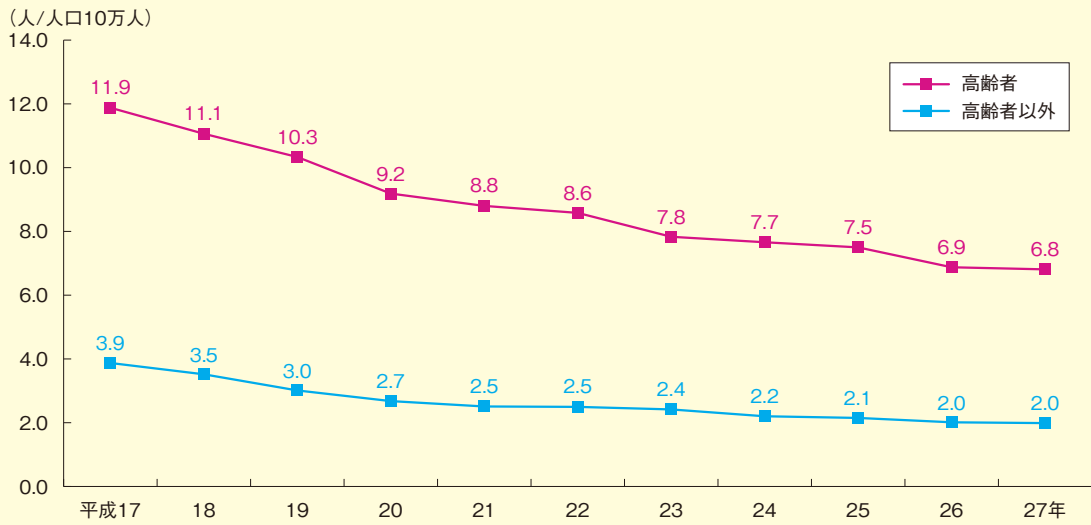
また、致死率については、3年連続で上昇しているが、この背景には、他の年齢層に比べて致死率が約6倍高い高齢者の人口が増加している一方、その他の年齢層の人口は減少していることが挙げられる（第1-6図）。

▶ 第1-4図 高齢者及び高齢者以外の死者数の推移



注 1 警察庁資料による。

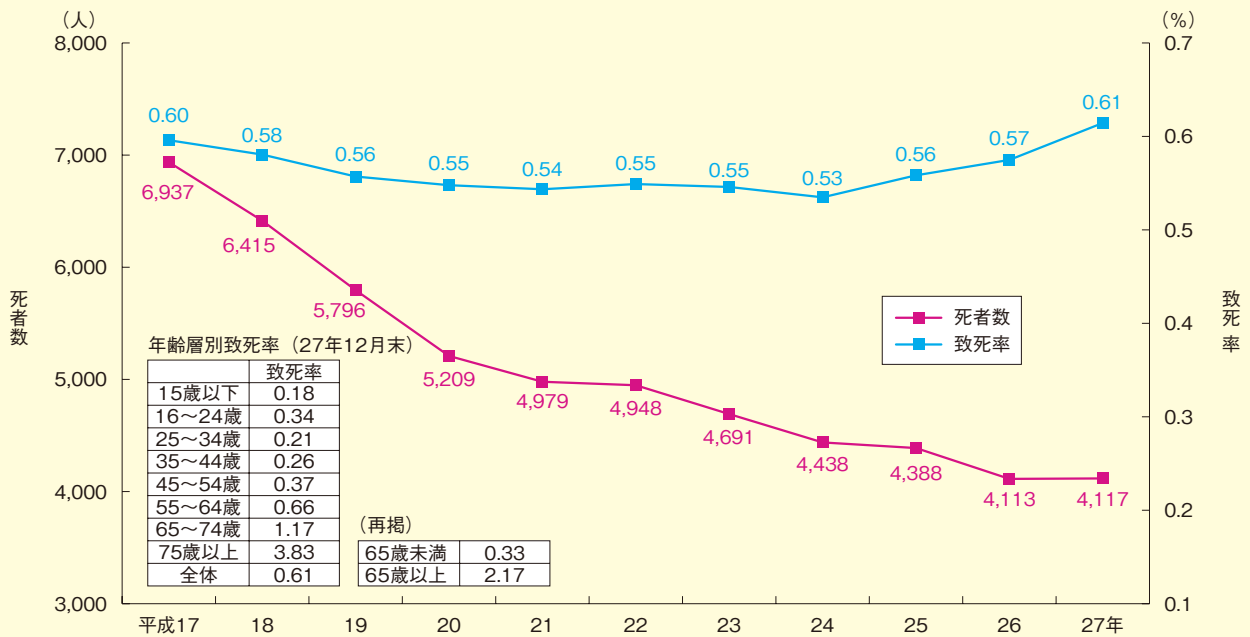
▶第1-5図 人口10万人当たりの高齢者及び高齢者以外の交通事故死者数の推移



注 1 警察庁資料による。

2 算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「人口推計（各年10月1日現在）」又は「国勢調査」による。

▶第1-6図 致死率及び死者数の推移



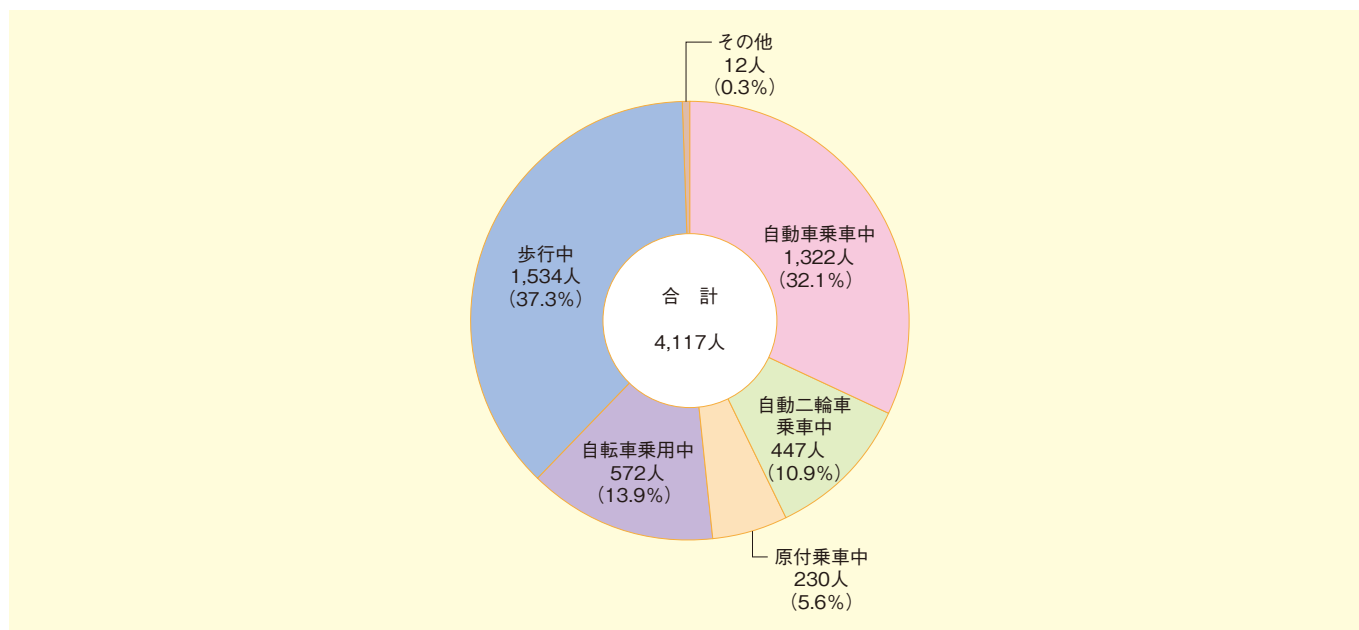
注 1 警察庁資料による。

2 致死率 = 死者数 ÷ 死傷者数 × 100

●状態別交通事故死者数及び負傷者数

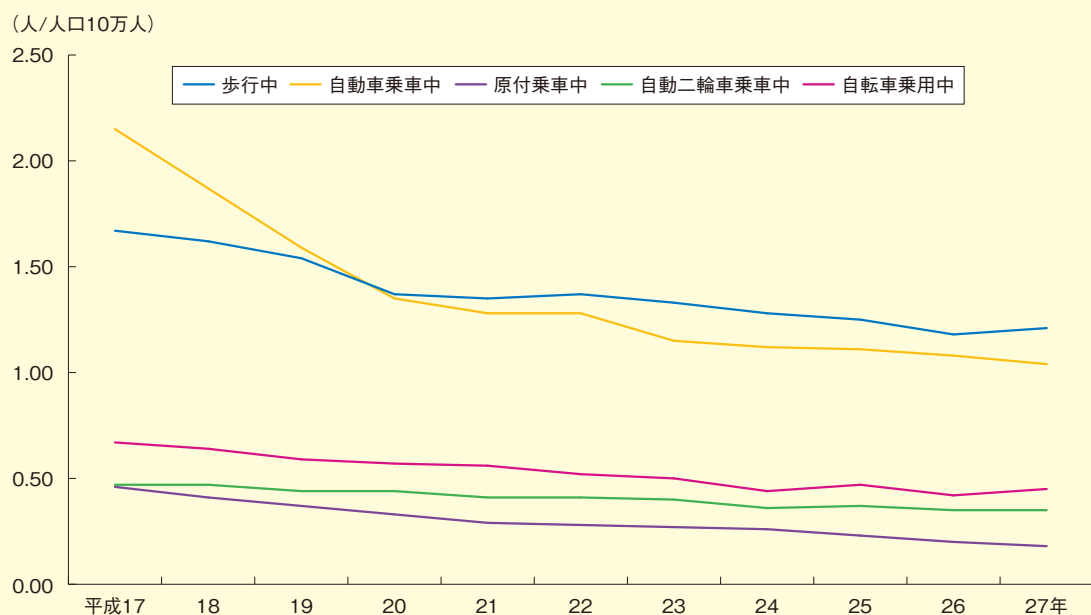
- ① 死者数は、歩行中（1,534人，構成率37.3%）が最も多く，次いで自動車乗車中（1,322人，構成率32.1%）が多くなっており，両者を合わせると全体の69.4%を占めている（第1-11図）。過去10年間の交通事故死者（人口10万人当たり）を状態別にみると，歩行中の交通事故死者は他に比べ余り減っていない（第1-12図）。
- ② 負傷者数は，自動車乗車中（442,319人，構成率66.4%）が最も多い（第1-13図）。過去10年間の交通事故負傷者数（人口10万人当たり）を状態別にみると，歩行中の負傷者は他に比べ余り減っていない（第1-14図）。

▶第1-11図 状態別交通事故死者数（平成27年）



注 1 警察庁資料による。
 2 () 内は構成率である。

▶ 第1-12図 状態別人口10万人当たり交通事故死者数の推移

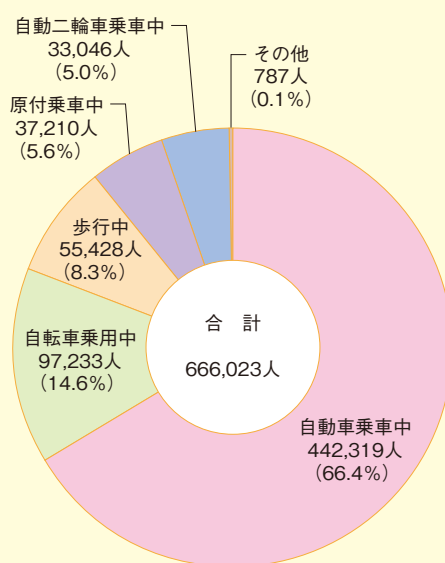


(人/人口10万人)	平成17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27年	増減率 (H17年比)
歩行中	1.67	1.62	1.54	1.37	1.35	1.37	1.33	1.28	1.25	1.18	1.21	-27.8
自動車乗車中	2.15	1.87	1.59	1.35	1.28	1.28	1.15	1.12	1.11	1.08	1.04	-51.6
原付乗車中	0.46	0.41	0.37	0.33	0.29	0.28	0.27	0.26	0.23	0.20	0.18	-60.4
自動二輪車乗車中	0.47	0.47	0.44	0.44	0.41	0.41	0.40	0.36	0.37	0.35	0.35	-25.6
自転車乗用中	0.67	0.64	0.59	0.57	0.56	0.52	0.50	0.44	0.47	0.42	0.45	-32.6

注 1 警察庁資料による。ただし、「その他」は省略してある。

2 算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「人口推計（各年10月1日現在）」又は「国勢調査」による。

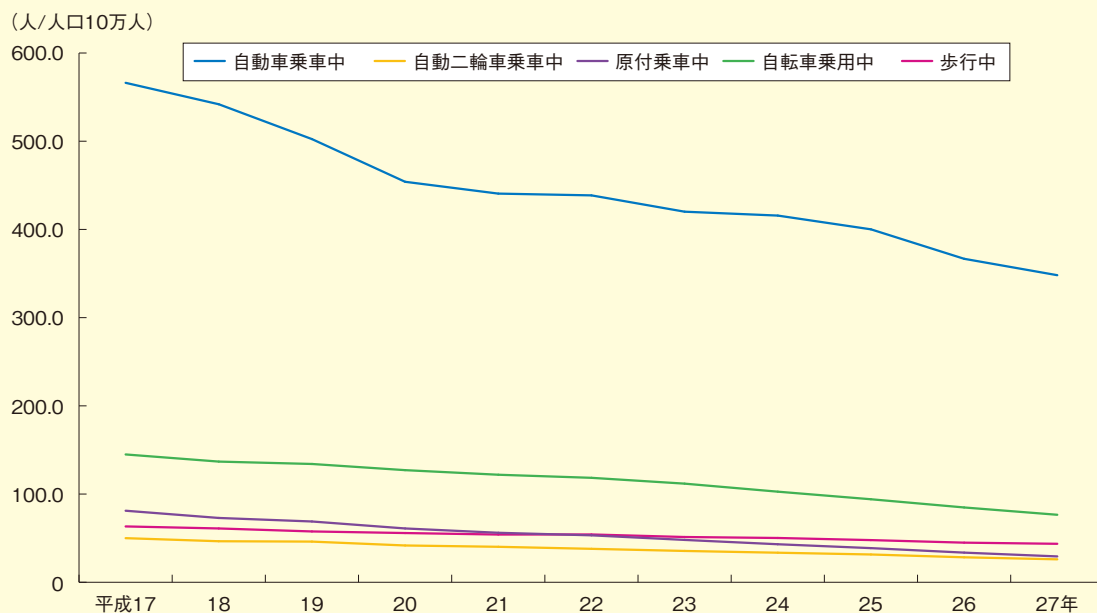
▶ 第1-13図 状態別交通事故負傷者数（平成27年）



注 1 警察庁資料による。

2 () 内は構成率である。

▶第1-14図 状態別人口10万人当たり交通事故負傷者数の推移



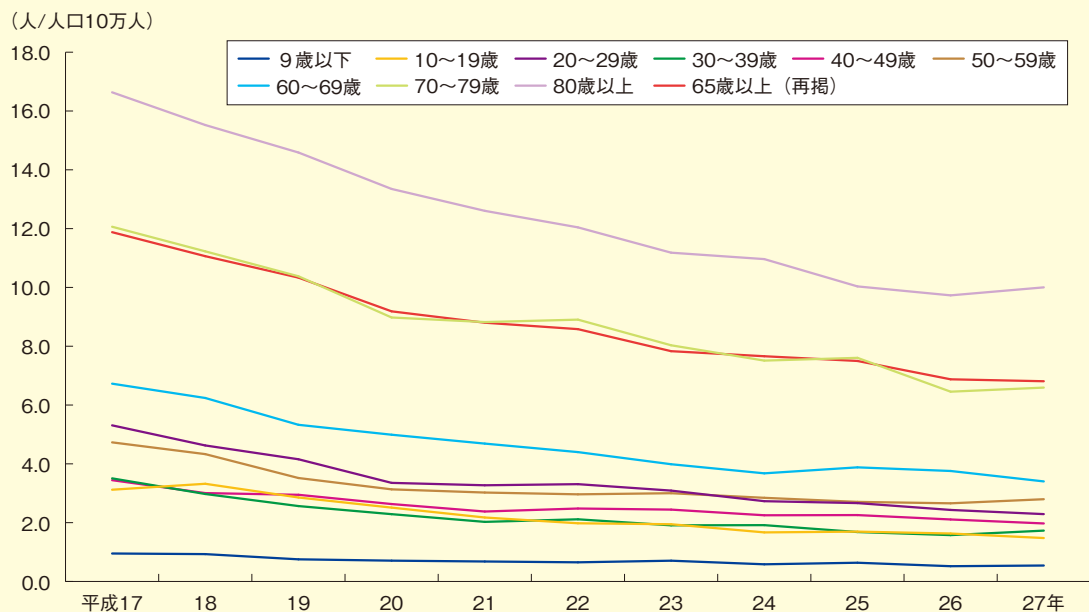
(人/人口10万人)	平成17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27年	増減率 (17年比)
自動車乗車中	566.2	541.9	502.4	454.0	440.6	438.6	420.1	415.7	400.1	366.7	348.1	-38.5%
自動二輪車乗車中	50.0	46.5	46.1	41.7	40.2	37.9	35.5	33.5	31.5	28.3	26.0	-48.0%
原付乗車中	81.1	72.9	68.9	61.0	56.1	53.2	48.0	43.1	38.7	33.6	29.3	-63.9%
自転車乗用中	144.9	136.8	134.1	127.1	121.9	118.4	111.8	102.7	94.1	84.8	76.5	-47.2%
歩行中	63.3	61.0	57.6	55.8	54.1	54.2	51.3	50.2	47.8	44.9	43.6	-31.1%

注 1 警察庁資料による。ただし、「その他」は省略してある。
 2 算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「人口推計（各年10月1日現在）」又は「国勢調査」による。

●年齢層別交通事故死者数及び負傷者数

- ① 死者数（人口10万人当たり）は、80歳以上（10.0人）が最も多く、次いで70～79歳（6.6人）、60～69歳（3.4人）の順で多く（第1-15図）、この3つの年齢層の死者数を合わせると全体の61.1%を占めている。（第1-16図）
- ② 65歳以上の高齢者の人口当たりの死者数は引き続き減少しているものの、高齢者人口そのものの増加により、結果的に高齢者の交通事故死者数は昨年比で増加し、交通事故死者数に占める高齢者の割合が過去最高となっている（54.6%）。
- ③ 過去10年間の交通事故死者数（人口10万人当たり）を年齢層別にみると、最も減少が緩やかな80歳以上の年齢層についても、全年齢層の平均と同様、平成17年と比較して4割程度の減少となっている。（第1-15図）
- ④ 負傷者数（人口10万人当たり）は、20～29歳（909.4人）が最も多く、次いで30～39歳（749.4人）、40～49歳（668.9人）が多く（第1-17図）、この3つの年齢層の負傷者数を合わせると全体の54.2%を占めている（第1-18図）。
- ⑤ 過去10年間の交通事故負傷者数を年齢層別（人口10万人当たり）でみると、40～49歳及び50～59歳の年齢層では他に比べ余り減っていない（第1-17図）。

▶第1-15図 年齢層別人口10万人当たり交通事故死者数の推移

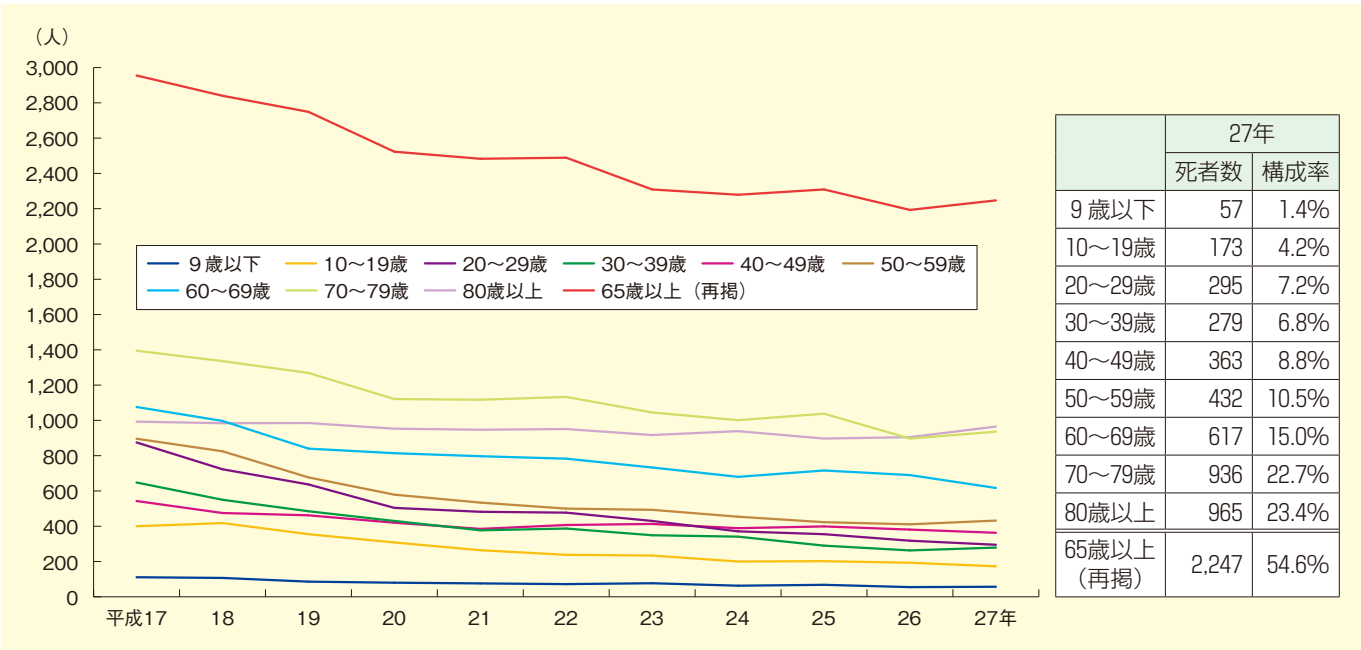


(人/人口10万人)	平成17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27年	増減率 (17年比)
9歳以下	1.0	0.9	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	-43.0%
10～19歳	3.1	3.3	2.9	2.5	2.2	2.0	1.9	1.7	1.7	1.6	1.5	-52.7%
20～29歳	5.3	4.6	4.2	3.4	3.3	3.3	3.1	2.7	2.7	2.4	2.3	-56.9%
30～39歳	3.5	3.0	2.6	2.3	2.0	2.1	1.9	1.9	1.7	1.6	1.7	-50.7%
40～49歳	3.4	3.0	2.9	2.6	2.4	2.5	2.4	2.3	2.3	2.1	2.0	-42.7%
50～59歳	4.7	4.3	3.5	3.1	3.0	3.0	3.0	2.8	2.7	2.7	2.8	-40.9%
60～69歳	6.7	6.2	5.3	5.0	4.7	4.4	4.0	3.7	3.9	3.8	3.4	-49.4%
70～79歳	12.1	11.2	10.4	9.0	8.8	8.9	8.0	7.5	7.6	6.5	6.6	-45.4%
80歳以上	16.6	15.5	14.6	13.3	12.6	12.0	11.2	11.0	10.0	9.7	10.0	-39.9%
65歳以上（再掲）	11.9	11.1	10.3	9.2	8.8	8.6	7.8	7.7	7.5	6.9	6.8	-42.7%
全年齢層	5.4	5.0	4.5	4.1	3.9	3.9	3.7	3.5	3.4	3.2	3.2	-40.4%

注 1 警察庁資料による。

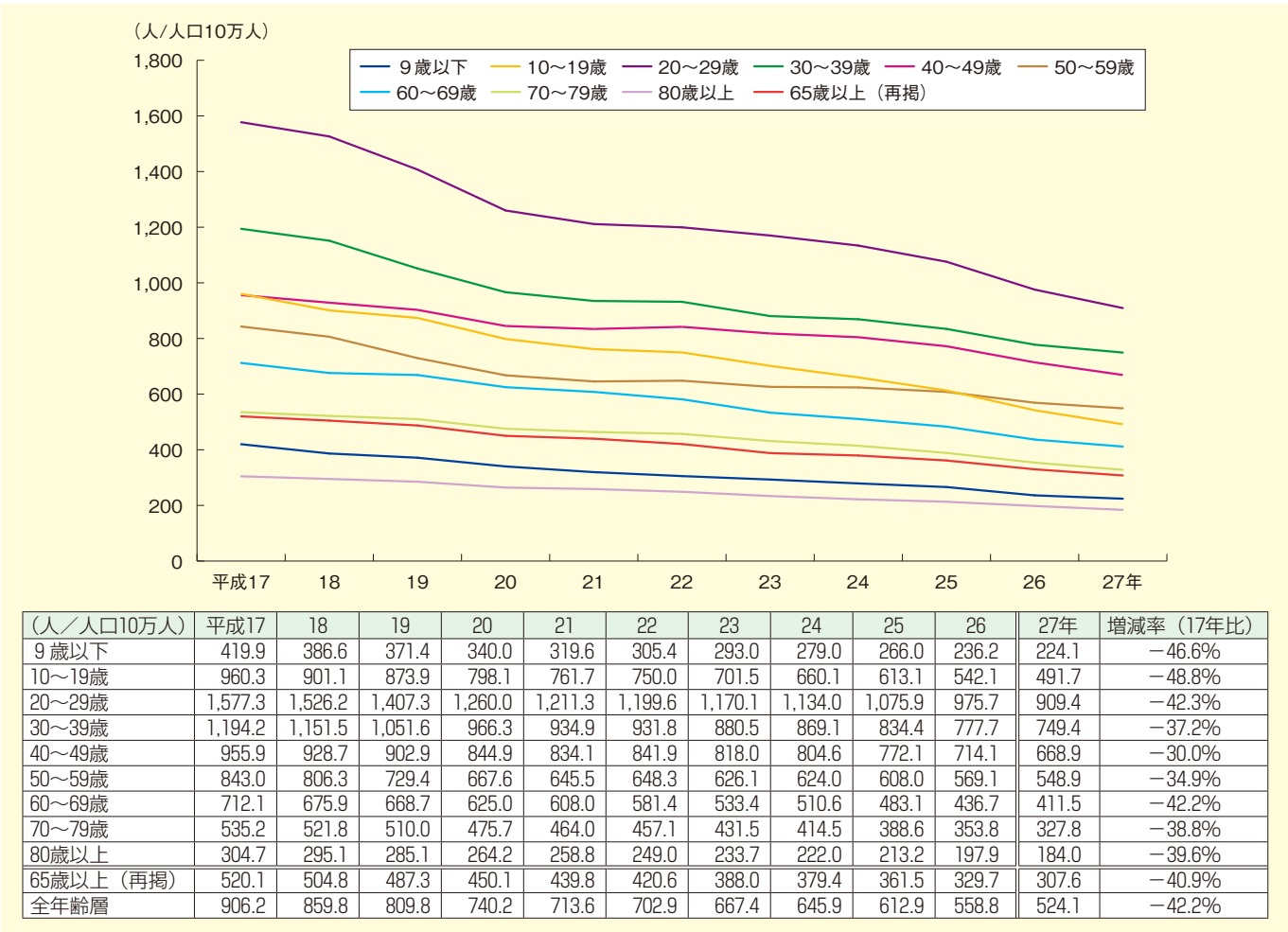
2 算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月1日現在推計人口」又は「国勢調査」による。

▶第1-16図 年齢層別交通事故死者数の推移



注 警察庁資料による。

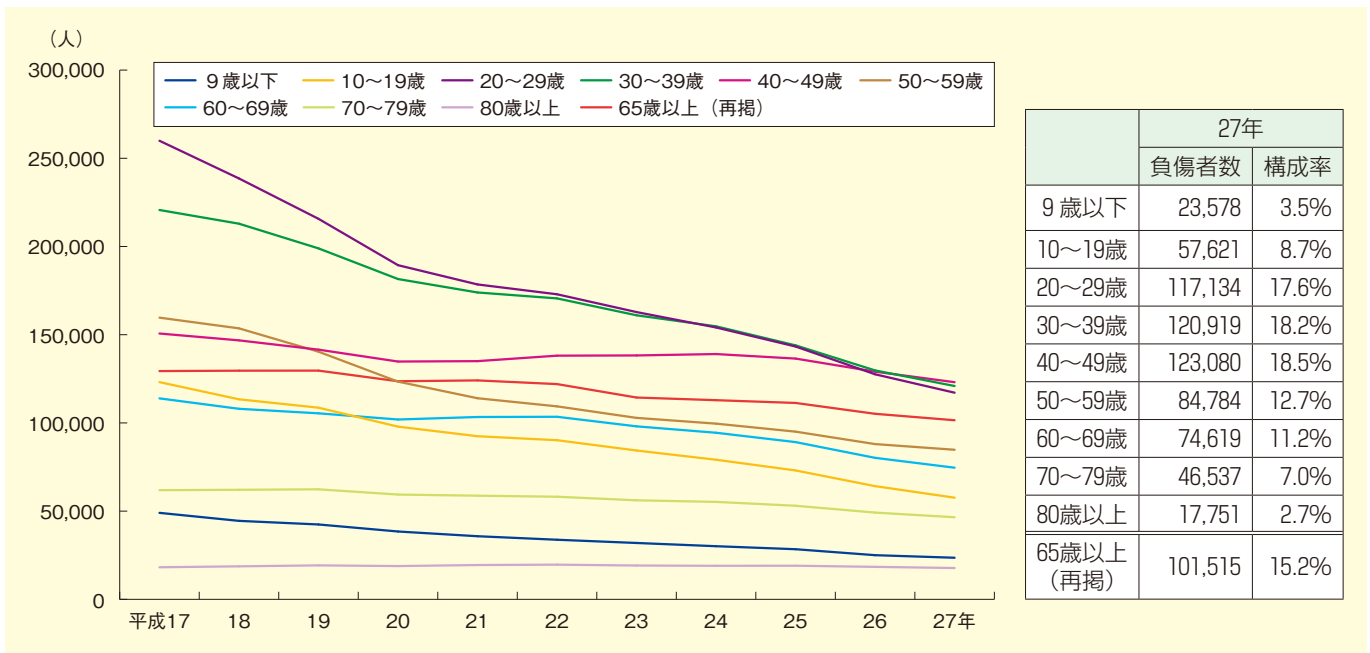
▶第1-17図 年齢層別人口10万人当たり交通事故負傷者数の推移



注 1 警察庁資料による。

2 算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月1日現在推計人口」又は「国勢調査」による。

▶ 第1-18図 年齢層別交通事故負傷者数の推移

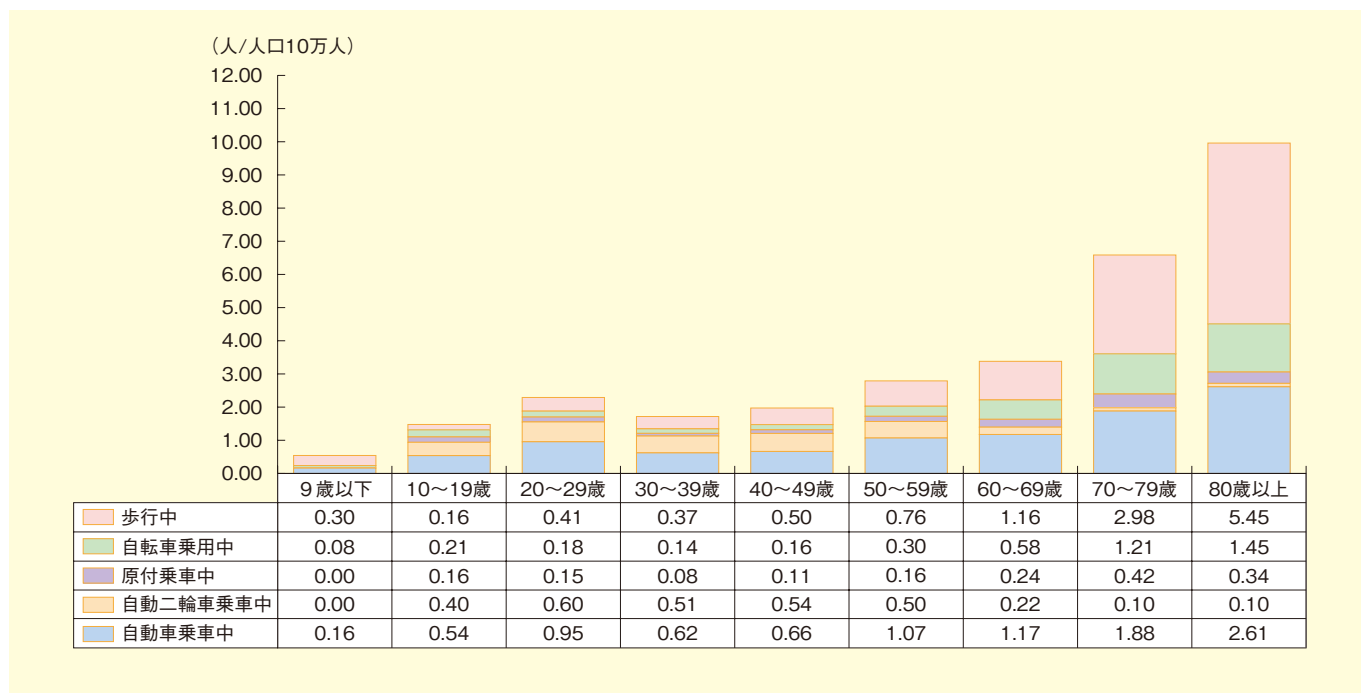


注 警察庁資料による。

●年齢層・状態別人口10万人当たり交通事故死者数

- ① 状態別でみた過去10年間の交通事故死者数（人口10万人当たり）の推移は，歩行中が他に比べ余り減っていない（第1-12図）。
- ② 平成27年の歩行中死者（人口10万人当たり）については，高齢者で多く，特に80歳以上（5.45人）では全年齢層の平均（1.21）の4倍以上の水準となっている（第1-19図）。

▶第1-19図 年齢層・状態別人口10万人当たり交通事故死者数（平成27年）

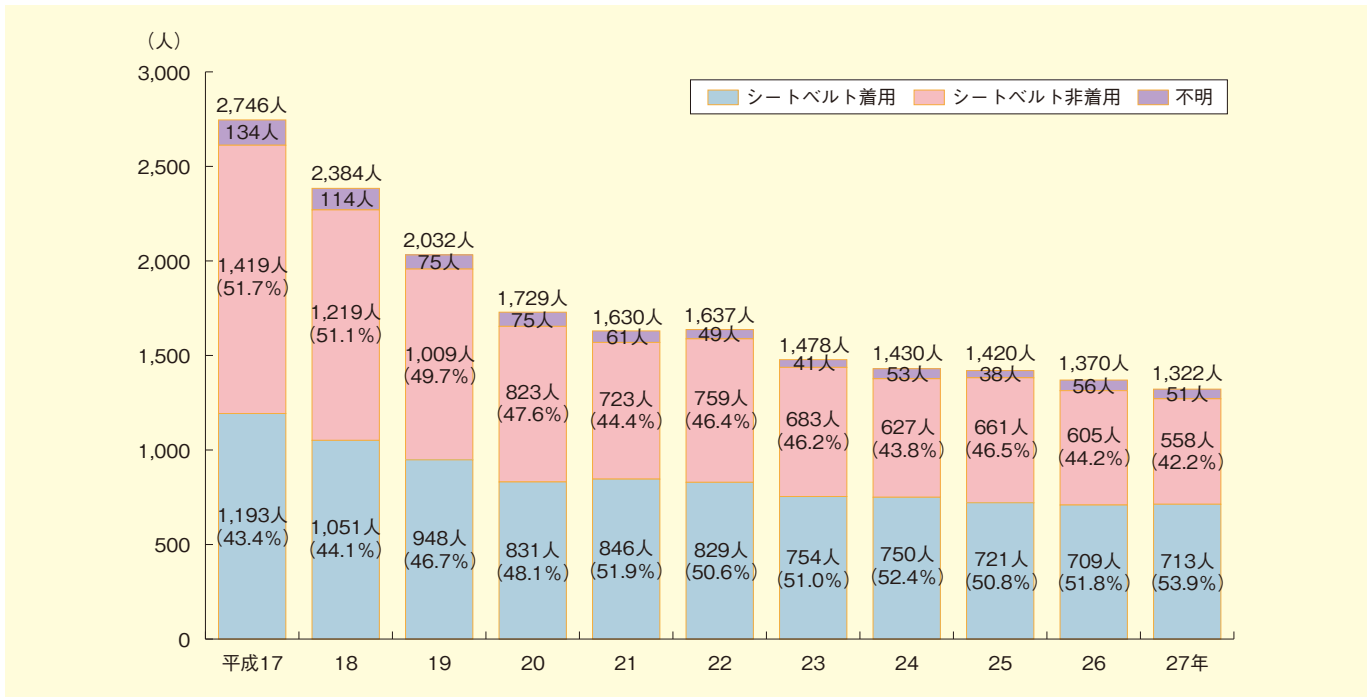


注 1 警察庁資料による。
 2 算出に用いた人口は，平成26年の総務省統計資料「人口推計（各年10月1日現在）」による。

●シートベルト着用の有無別死者数

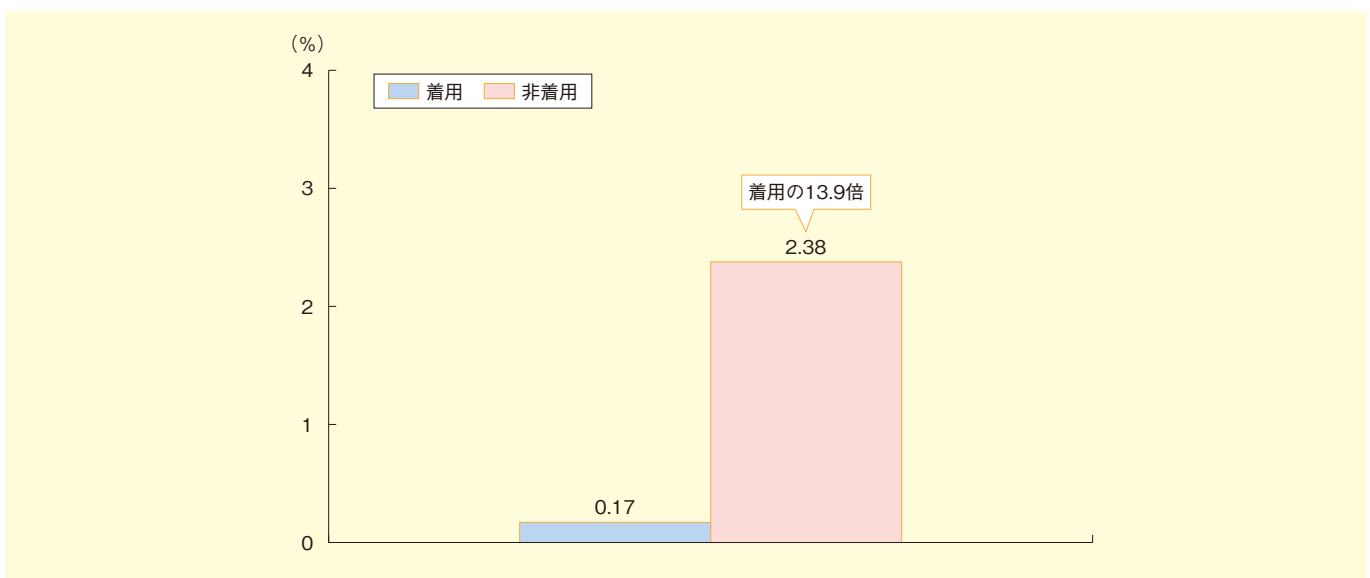
- ① 平成27年中の自動車乗車中の交通事故死者数をシートベルト着用の有無別にみると、非着用は558人で、前年に比べて47人（7.8%）減少した（第1-27図）。
- ② 非着用の致死率（死傷者数に占める死者数の割合）は、着用の13.9倍と高くなっている（第1-29図）。

▶第1-27図 自動車乗車中におけるシートベルト着用有無別死者数の推移



注 1 警察庁資料による。
 2 () 内は構成率である。

▶第1-29図 自動車乗車中におけるシートベルト着用有無別致死率（平成27年）

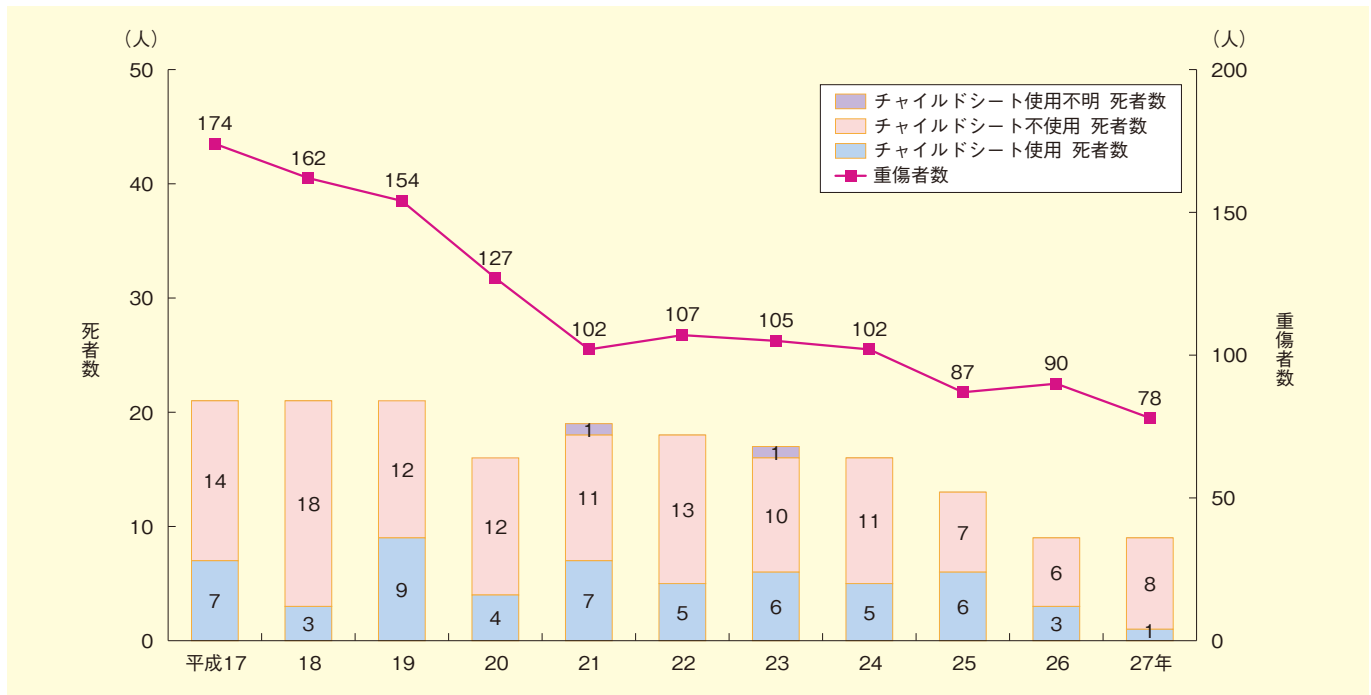


注 警察庁資料による。

●チャイルドシート使用の有無別死傷者数

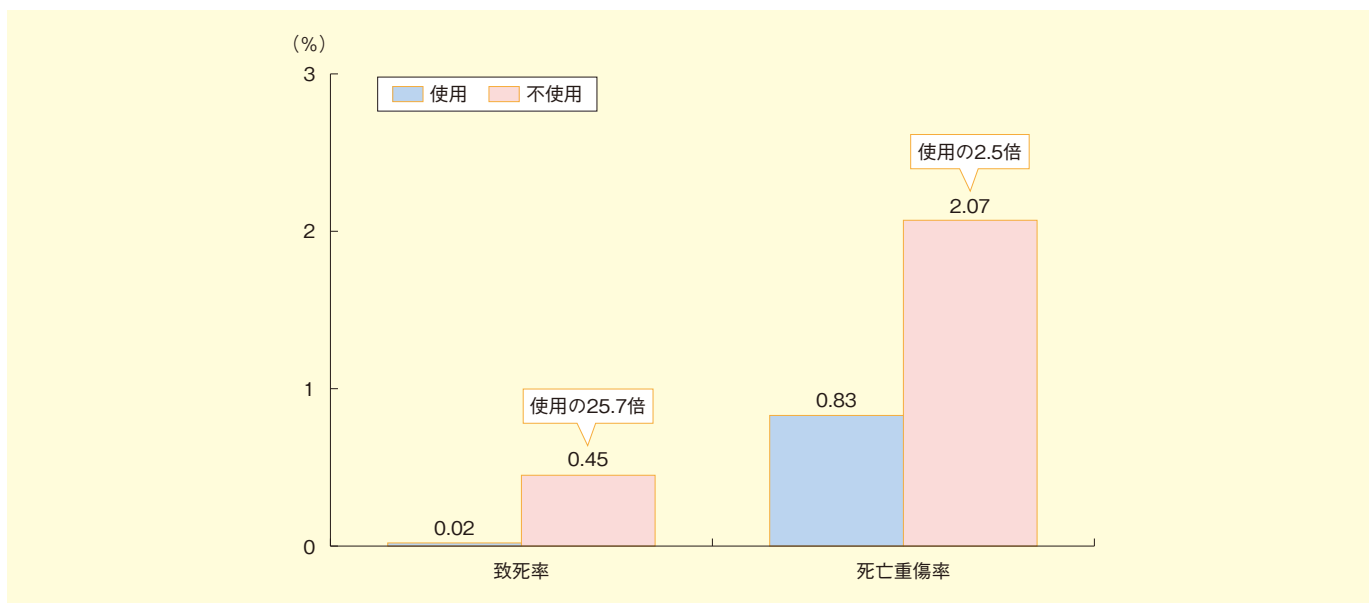
- ① 平成27年中の6歳未満幼児の自動車同乗中の死者数は、9人（うちチャイルドシート使用は1人）であり、重傷者数は78人であった（第1-30図）。
- ② 6歳未満幼児のチャイルドシート使用有無別の死亡重傷率をみると、不使用は使用の2.5倍、致死率をみると、不使用は使用の25.7倍となる（第1-32図）。

▶第1-30図 自動車同乗中におけるチャイルドシート使用有無別6歳未満死者・重傷者の推移



注 警察庁資料による。

▶第1-32図 自動車同乗中におけるチャイルドシート使用有無別6歳未満致死率及び死亡重傷率（平成27年）



注 警察庁資料による。